

かつて市電が走り、Sレがくぐり抜けた

西五丁目陸橋

札幌の南北交通の大動脈である西五丁目樽川通に架けられ、札幌の一番古い跨線橋こせんきょう（鉄道をまたぐ橋）だった西五丁目陸橋を紹介します。

中央区と北区や東区の区境となつているJR函館本線の高架橋。

今でこそ車や人は高架下の道路をごく普通に行き来していますが、昭和六十三年十一月に鉄道と道路が連続立体交差化されるまでは、鉄道を横断する道路は各踏切で大渋滞となり、南北間の交通は札幌駅の両側にあつた西五丁目陸橋と創成川通の石狩陸橋に集中していました。

明治十三年（一八八〇年）に開通して札幌の発展に貢献してきた鉄道も、大正になると通過列車の増加などで西五丁目踏切の通行に支障がでてきました。また、市電の鉄北線と北五条線は、この踏切の部分で徒歩で乗り継いでいました。

これらの不便を解消するため、昭和七年十二月に

完成したのが長さ百六十八呎の西五丁目陸橋で、鉄北線の軌道も敷かれました。陸橋はその後四十二年の函館本線電化に伴つて約一呎かさ上げされ、この時東側に新設された市電の専用橋は、四十六年十二月の地下鉄南北線開業によつて鉄北線の一部が廃止されたために撤去されました。

そして、陸橋自体も、南北交通の円滑化と南北市街地の均衡ある発展などを目的に札幌市が取り組んだ函館本線の連続立体交差事業によつて使命を終え、石狩陸橋とともに姿を消しました。



昭和7年ころの西5丁目陸橋
(甲地信長さん提供)